

3500分の1の確率

米航空宇宙局（NASA）が打ち上げた人工衛星UARSが役目を終えて、24日、地球に落下しました。当初は、地表にダメージを与える確率は3500分の1、日本に落ちる可能性もあるということで、話題になりました。政府も、22日に藤村官房長官が、日本国民に被害が出る可能性は極めて低いというコメントを発表する程でした。

確かに、3500分の1というのはかなりの高確率ですが、私自身に人工衛星の破片が当たる確率は21兆分の1ということですから、全く雲を掴むような話です。

例えば、宝くじに当たる確率は、年末ジャンボ宝くじは1000万通の中に1等2億円が1本ですから、1枚だけ買って1等を当てる確率は1000万分の1、10枚買っても1等が当たる確率は1000万分の10という事で、現実には、今までのところ擦りもしません。つまり、当たる確率はゼロに等しいということなのですが、でも、世の中には当たっている、誠に幸運な人がいるんですよ。癪ですけど、「2億円なんか当たったら人生狂うから当たらない方がいいんだ」と自分をなぐさめるしかないようです。

話が横道にそれてしまいましたが、いたかったことは、宝くじの1等に当たる確率は殆どゼロなのですから、まして人工衛星の破片に当たる確率は皆無に等しいということです。ですが、じゃあ絶対に当たらないのかといえは、ないと断言できる人はいないというのが、確率のややこしいところです。

確率というのは、ある事象が発生する可能性（頻度）の大きさを表す数値のことをいいますので、1000万分の1であろうと、21兆分の1であろうと、当たる確率はあるわけです。

昔は、天気予報は当たらないことの代名詞みたいなものでした。「ふぐを食べるとき天気予報といえは当たらない」というのは笑い話ですが、今では、雨

が降る確率を%で表示するようになりました。私などは気が短い方ですから、雨の降る確率50%といわれると、

「降るのか降らないのかハッキリしてくれ」といいたくなります。まあ、雨に当たる、当たらないは自己責任の範囲であり、急に雨が降ってきてもコンビニに行けば500円ほどで傘が買えますので問題はありますが、地震発生の確率となると、そうはいきません

政府は、今後30年以内に震度6弱以上の地震が発生する確率50%以上の地域を公表していますが、それによると北海道は60%を超えています。地震発生の確率5割を超えるというのは、それだけ危険性があると認識しなければなりません。しかし、起こらない可能性もあるわけで、判断に迷いますね。特に、今後30年間の内にといわれると、

それは今日明日のことなのか、30年先の事なのか、%の確率で説明されても理解不能です。

結局は、大地震は何時起きても不思議ではない、と覚悟を決めておくしかないようです。(塾頭 吉田 洋一)